

厚生労働大臣 殿

開設者名 学校法人 聖マリアンナ
理事長 明 石 月 子

聖マリアンナ医科大学病院の業務に関する報告について

標記について、医療法第12条の3の規定に基づき、平成18年度の業務に関して報告します。

記

- 1 高度の医療の提供の実績 → 別紙参照(様式第10)
- 2 高度の医療技術の開発及び評価の実績 → 別紙参照(様式第11)
- 3 高度の医療に関する研修の実績

研修医の人数	72人
--------	-----

(注) 前年度の研修医の実数を記入すること。

- 4 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の体系的な管理方法

→ 別紙参照(様式第12)

- 5 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法及び閲覧の実績

- 6 他の病院又は診療所から紹介された患者に対する医療提供の実績

→ 別紙参照(様式第13)

- 7 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

職種	常勤	非常勤	合計	職種	員数	職種	員数
医師	372人	3.8人	375.8人	看護業務補助	72人	診療エックス線技師	0人
歯科医師	0人	0人	0人	理学療法士	19人	臨床検査技師	87人
薬剤師	48人	0人	48人	作業療法士	7人	衛生検査技師	0人
保健師	41人	0人	41人	視能訓練士	8人	その他	0人
助産師	19人	0人	19人	義肢装具士	0人	あん摩マッサージ指圧師	0人
看護師	815人	19.6人	834.6人	臨床工学技士	20人	医療社会事業従事者	7人
准看護師	5人	0人	5人	栄養士	2人	その他の技術員	21人
歯科衛生士	0人	0人	0人	歯科技工士	0人	事務職員	124人
管理栄養士	9人	0人	9人	診療放射線技師	60人	その他の職員	7人

(注) 1 報告を行う当該年度の10月1日現在の員数を記入すること。

2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。

3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

- 8 入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科及び小児歯科の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	
1日当たり平均入院患者数	896.87人	—人	896.87人
1日当たり平均外来患者数	2,337.08人	—人	2,337.08人
1日当たり平均調剤数		1,462剤	

(注) 1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療科を受診した患者数を記入すること。

2 入院患者数は、年間の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。

3 外来患者数は、年間の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。

4 調剤数は、年間の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。

(様式第10)

高度の医療の提供の実績

1 高度先進医療の承認の有無及び取扱い患者数

高度先進医療の種類(医科)	承認	取扱い患者数
・顔面骨又は頭蓋骨の親血的移動術	有・無	人
・培養細胞による先天性代謝異常診断	有・無	人
・溶血性貧血症の病因解析及び遺伝子解析診断法	有・無	人
・経皮的埋め込み電極を用いた機能的電子刺激療法	有・無	人
・人工括約筋を用いた尿失禁の治療	有・無	人
・人工中耳	有・無	人
・実物大臓器立体モデルによる手術計画	有・無	0人
・性腺機能不全の早期診断法	有・無	人
・経皮的レーザー椎間板切除術(内視鏡下を含む)	有・無	人
・造血器腫瘍細胞における薬剤耐性遺伝子産物P糖蛋白の測定	有・無	人
・スキンドファイバー法による悪性高熱症診断法	有・無	人
・血小板膜糖蛋白異常症の病型及び病因診断	有・無	人
・焦点式高エネルギー超音波療法	有・無	人
・オープンMRを用いた腰椎椎間板ヘルニアに対するヤグレーザーによる経皮的椎間板減圧術	有・無	人
・肺腫瘍のCTガイド下気管支鏡検査	有・無	人
・先天性血液凝固異常症の遺伝子診断	有・無	人
・筋緊張性ジストロフィーのDNA診断	有・無	人
・SDI法による抗がん剤感受性試験	有・無	人
・内視鏡下頸部良性腫瘍摘出術	有・無	人
・栄養障害型表皮水疱症のDNA診断	有・無	人
・家族性アミロイドーシスのDNA診断	有・無	人
・三次元形状解析による顔面の形態的診断	有・無	人
・マス・スペクトロメトリーによる家族性アミロイドーシスの診断	有・無	人
・抗がん剤感受性試験	有・無	14人
・子宮頸部前がん病変のHPV-DNA診断	有・無	人
・不整脈疾患における遺伝子診断	有・無	人
・腹腔鏡下肝切除術	有・無	人
・画像支援ナビゲーション手術	有・無	人
・悪性腫瘍に対する粒子線治療	有・無	人
・エキシマレーザーによる治療的角膜切除術	有・無	人
・成長障害のDNA診断	有・無	人
・生体部分肺移植術	有・無	人
・門脈圧亢進症に対する経頸静脈肝内門脈大循環短絡術	有・無	人
・乳房温存療法における鏡視下腋窩郭清術	有・無	人
・悪性黒色腫におけるセンチネルリンパ節の遺伝子診断	有・無	人
・腫瘍性骨病変及び骨粗鬆症に伴う骨脆弱性病変に対する経皮的骨形成術	有・無	79人
・声帯内自家側頭筋膜移植術	有・無	人
・骨髄細胞移植による血管新生療法	有・無	人
・ミトコンドリア病のDNA診断	有・無	人
・悪性黒色腫又は乳がんにおけるセンチネルリンパ節の同定と転移の検索	有・無	人
・鏡視下肩峰下腔徐圧術	有・無	人

高度先進医療の種類(医科)	承認	取扱い患者数
・神経変性疾患のDNA診断	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
・脊髄性筋萎縮症のDNA診断	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
・難治性眼疾患に対する羊膜移植術	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
・固形がんに対する重粒子線治療	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
・脊椎腫瘍に対する腫瘍脊椎骨全摘術	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
・カフェイン併用化学療法	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
・31P-磁気共鳴スペクトロスコピーとケミカルシフト画像による糖尿病性足病変の非侵襲的診断	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
・特発性男性不妊症又は性腺機能不全症の遺伝子診断	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
・胎児尿路・羊水腔シャント術	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
・遺伝性コプロポルフィン症のDNA診断	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
・固形腫瘍(神経芽腫)のRNA診断	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
・硬膜外腔内視鏡による難治性腰下肢痛の治療	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
・重症BCG副反応症例における遺伝子診断	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
・自家液体窒素処理骨による骨軟部腫瘍切除後骨欠損の再建	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
・脾腫瘍に対する腹腔鏡補助下脾切除術	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
・低悪性度非ホジキンリンパ腫の遺伝子診断	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
・悪性脳腫瘍に対する抗がん剤治療における薬剤耐性遺伝子解析	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
・高発がん性遺伝性皮膚疾患のDNA診断	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
・筋過緊張に対するmuscle afferent block(MAB)治療	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
・Q熱診断における血清抗体価測定及び病原体遺伝子診断	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
・エキシマレーザー冠動脈形成術	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
・活性化Tリンパ球移入療法	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
・抗がん剤感受性試験(CD-DST法)	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
・胸部悪性腫瘍に対するラジオ波焼灼療法	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
・家族性アルツハイマー病の遺伝子診断	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
・腎悪性腫瘍に対するラジオ波焼灼療法	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
・膀胱尿管逆流症に対する腹腔鏡下逆流防止術	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
・中枢神経白質形成異常症の遺伝子診断	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
・三次元再構築画像による股関節疾患の診断と治療	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
・樹状細胞及び腫瘍抗原ペプチドを用いたがんワクチン療法	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
・内視鏡下甲状腺がん手術	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
・骨腫瘍のCT透視ガイド下経皮的ラジオ波焼灼療法	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
・泌尿生殖器腫瘍の後腹膜リンパ節転移に対する腹腔鏡下リンパ節郭清術	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
・HLA抗原不一致血縁ドナーからのCD34陽性造血幹細胞移植	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
・下肢静脈瘤に対する血管内レーザー治療法	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
・頸椎椎間板ヘルニアに対するヤグレーザーによる経皮的椎間板減圧術(CT透視下法)	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
・胎児胸腔・羊水腔シャントチューブ留置術	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
・活性化血小板の検出	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
・早期胃がんに対する腹腔鏡下センチネルリンパ節検索	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
・ケラチン病の遺伝子診断	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
・隆起性皮膚線維肉腫の遺伝子診断	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
・末梢血幹細胞(CD34陽性細胞に限る。)による血管再生治療	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
・末梢血単核球移植による血管再生治療	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人

高度先進医療の種類(医科)	承認	取扱い患者数
・副甲状腺内活性型ビタミンD(アナログ)直接注入療法	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
・グルタミン受容体自己抗体による自己免疫性神経疾患の診断	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
・腹腔鏡下広汎子宮全摘出術	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
・一絨毛膜性双胎妊娠において発症した双胎間輸血症候群に対する内視鏡的胎盤吻合血管レーザー焼灼術	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
・自己腫瘍(組織)を用いた活性化自己リンパ球移入療法	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
・自己腫瘍(組織)及び樹状細胞を用いた活性化自己リンパ球移入療法	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人

高度先進医療の種類(歯科)	承認	取扱い患者数
・インプラント義歯	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
・顎顔面補綴	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
・顎関節症の補綴学的治療	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
・歯周組織再生誘導法	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
・接着ブリッジによる欠損補綴並びに動揺歯固定	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
・光学印象採得による陶材歯冠修復法	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
・エックス線透視下非観血的唾石摘出術	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
・レーザー応用による齶蝕除去・スクレーピングの無痛療法	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
・顎関節鏡視下レーザー手術併用による円板縫合固定術	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
・顎関節脱臼内視鏡下手術	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
・耳鼻いんこう科領域の機能障害を伴った顎関節症に対する中耳伝音系を指標とした顎位決定法	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人

先進医療の種類	承認	取扱い患者数
高周波切除器を用いた子宮腺筋症核出術	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
自動吻合器を用いた直腸粘膜脱又は内痔核手術(PPH)	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
画像支援ナビゲーションによる膝靭帯再建手術	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
凍結保存同種組織を用いた外科治療	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
強度変調放射線治療	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
胎児心超音波検査	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
内視鏡下小切開泌尿器腫瘍手術	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
画像支援ナビゲーションによる内視鏡下鼻内副鼻腔手術	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
インプラント義歯	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
顎顔面補綴	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
人工中耳	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
歯周組織再生誘導法	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
抗がん剤感受性試験	<input checked="" type="radio"/> 有・無	14人
腹腔鏡下肝切除術	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
生体部分肺移植術	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
活性化血小板の検出	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
末梢血幹細胞による血管再生治療	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人

先進医療の種類	承認	取扱い患者数
カラー蛍光観察システム下気管支鏡検査及び光線力学療法	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
先天性銅代謝異常症の遺伝子診断	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
超音波骨折治療法	<input checked="" type="radio"/> 有・無	0人
眼底三次元画像解析	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
CYP2C19遺伝子多型検査に基づくテーラーメイドのヘリコバクター・ピロリ除菌療法	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
非生体ドナーから採取された同種骨・靱帯組織の凍結保存	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
X線CT診断装置及び手術用顕微鏡を用いた歯根端切除手術	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
定量的CTを用いた有限要素法による骨強度予測評価	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人

(注) 1 「取扱い患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

2 高度先進医療で上の表に掲げられていないものを行っている場合は、空欄の部分に記入すること。

3 先進医療で上の表に掲げているものは、今年度の業務に関する報告の対象ではないが来年度以降の参考のため記入すること。

2 特定疾患治療研究事業対象疾患についての診療

疾患名	取扱い患者数	疾患名	取扱い患者数
・ベーチェット病	283人	・モヤモヤ病(ウイルス動脈輪閉塞症)	27人
・多発性硬化症	146人	・ウェゲー肉芽腫症	37人
・重症筋無力症	154人	・特発性拡張型(うっ血型)心筋症	22人
・全身性エリテマトーデス	1,751人	・多系統萎縮症	20人
・スモン	3人	・表皮水疱症(接合部型及び栄養障害型)	1人
・再生不良性貧血	263人	・膿疱性乾癬	14人
・サルコイドーシス	167人	・広範脊柱管狭窄症	5人
・筋萎縮性側索硬化症	38人	・原発性胆汁性肝硬変	385人
・強皮症, 皮膚筋炎及び多発性筋炎	577人	・重症急性膵炎	23人
・特発性血小板減少性紫斑病	146人	・特発性大腿骨頭壊死症	52人
・結節性動脈周囲炎	86人	・混合性結合組織病	179人
・潰瘍性大腸炎	302人	・原発性免疫不全症候群	3人
・大動脈炎症候群	37人	・特発性間質性肺炎	28人
・ピュルガー病	313人	・網膜色素変性症	76人
・天疱瘡	88人	・プリオン病	4人
・脊髄小脳変性症	134人	・原発性肺高血圧症	12人
・クローン病	73人	・神経線維腫症	10人
・難治性の肝炎のうち劇症肝炎	8人	・亜急性硬化性全脳炎	1人
・悪性関節リウマチ	81人	・バット・キアリ(Budd-Chiari)症候群	0人
・パーキンソン病関連疾患	497人	・特発性慢性肺血栓栓症(肺高血圧型)	2人
・アミロイドーシス	202人	・ライソゾーム病(ファブリー[Fabry]病)含む	0人
・後縦靭帯骨化症	82人	・副腎白質ジストロフィー	2人
・ハンチントン病	4人		

(注)「取扱い患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

3 病院・臨床検査部門の概要

臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況	①臨床検査部門と病理診断部門は別々である。 2. 臨床検査部門と病理診断部門は同一部門にまとめられている。		
臨床部門が病理診断部門或いは臨床検査部門と開催した症例検討会の開催頻度	病院CPC 4回、婦人科カンファレンス 6回、乳腺カンファレンス 5回、消化器カンファレンス 4回、骨軟部カンファレンス 3回、毎週月水金の3回/週 肉眼検討会(放射線)		
剖検の状況	剖検症例数	69例	剖検率 9.91%

1. 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額(千円)	補助又は委託元	
無細胞化凍結気管をScaffoldとする気管再生と再生過程のin vivo観察	長田 博昭	外科学(呼吸器外科)	500	補委	文部科学省
大腸癌の検診に利用しうる新規遺伝子スクリーニング法の開発	伊東 文生	内科学(消化器・肝臓内科)	3,900	補委	文部科学省
ヒト造精機能障害に関与する精細管基底膜内糖蛋白質の同定と機能解析	岩本 晃明	泌尿器科学	1,600	補委	文部科学省
卵巣癌に対するヒトモノクローナル抗体を用いた分子標的療法の確立	鈴木 直	産婦人科学	1,100	補委	文部科学省
モルモット聴皮質の可塑性	越智 健太郎	耳鼻咽喉科学	1,300	補委	文部科学省
再生医療技術を用いた皮膚再建に関する研究	熊谷 憲夫	形成外科学	1,500	補委	文部科学省
生活習慣病予防のための食事、運動指導の具体的効果の解明とその科学的根拠の確立	田中 逸	内科学(代謝・内分泌内科)	2,000	補委	文部科学省
気道狭窄におけるハイブリットステント留置の呼吸生理学的研究	宮澤 輝臣	内科学(呼吸器・感染症内科)	1,300	補委	文部科学省
メラノサイト及びメラノーマ細胞の分化におけるBMPとKITの役割と関係	川上 民裕	皮膚科学	2,400	補委	文部科学省
抗うつ薬奏功蛋白質の新規ケミカルプロテオミクス法を用いた探索と蛋白質クローニング	長田 賢一	神経精神科学	1,700	補委	文部科学省
2D-DIGEシステムを用いた新規乳癌関連遺伝子の同定と機能解析	福田 護	外科学(乳腺・内分泌外科)	1,800	補委	文部科学省
乳癌の抗癌剤感受性に影響を及ぼすDNA修復機構の解析	太田 智彦	外科学(乳腺・内分泌外科)	1,900	補委	文部科学省
EDDIによるAPC安定性制御機構における役割	大坪 毅人	外科学(消化器・一般外科)	1,800	補委	文部科学省
障害肝の外科的侵襲脆弱性に対する治療法の検討:プロテオミクスを用いたアプローチ	中野 浩	外科学(消化器・一般外科)	2,200	補委	文部科学省
分子シャペロンHspをtargetとした卵巣癌分子標的治療開発への試み	木口 一成	産婦人科学	1,800	補委	文部科学省

(注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合は、主たる研究者の氏名を記入すること。

3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印を付けた上で、補助元又は委託元を記入すること。

1. 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額(千円)	補助又は委託元	
音像定位・体性感覚入力を利用しためまいリハビリテーション法の開発	肥塚 泉	耳鼻咽喉科学	3,200	補委	文部科学省
羊胎仔尿路閉塞に対する膀胱-羊水腔シャント効果とその治療メカニズムの解明	北川 博昭	外科学(小児外科)	1,900	補委	文部科学省
肺癌治療の標的となる染色体不安定性機構起因分子の解明	伊東 文生	内科学(消化器・肝臓内科)	3,300	補委	文部科学省
新規抗うつ薬結合蛋白質過剰発現マウスのストレス耐性とうつ病モデル動物の検討	朝倉 幹雄	神経精神科学	1,100	補委	文部科学省
川崎病罹患中の血小板由来一酸化窒素(NO)の血栓形成に対する関与の検討	麻生健太郎	小児科学	700	補委	文部科学省
強大音負荷による聴皮質および蝸牛神経におけるシングルユニット神経活動の変化	小宅 大輔	耳鼻咽喉科学	500	補委	文部科学省
遺伝性色素異常症と悪性黒色腫におけるチロシナーゼ関連蛋白の細胞内小胞輸送の解明	渡部 秀憲	皮膚科学	1,700	補委	文部科学省
PI 3-kinaseシグナル伝達の解明による膵臓癌発生メカニズムと治療法の究明	朝野 隆之	外科学(消化器・一般外科)	1,500	補委	文部科学省
組織特異的プロモーターを用いたホルモン抵抗性前立腺がんに対する遺伝子治療の検討	古畑 壮一	泌尿器科学	1,500	補委	文部科学省
膀胱癌の腫瘍マーカーの検索および遺伝子治療	佐々木秀郎	泌尿器科学	1,500	補委	文部科学省
真珠腫上皮の増殖のメカニズムとその抑制機構の解明	木内 庸雄	耳鼻咽喉科学	1,000	補委	文部科学省
2D-DIGEを用いた乳癌における抗癌剤感受性予測	宮本 圭子	外科学(乳腺・内分泌外科)	1,800	補委	文部科学省
ヒトモノクローナル抗体を用いた卵巣癌の腹膜播種に対する新たな分子標的治療の確立	平野 喜美恵	産婦人科学	2,200	補委	文部科学省
TNF- α による視神経障害の分子生物学的検討	北岡 康史	眼科学	1,700	補委	文部科学省
					計 29件

(注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合は、主たる研究者の氏名を記入すること。

3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」、委託の場合は「委」に、○印を付けた上で、補助元又は委託元を記入すること。

2. 論文発表等の実績

雑 誌 名	題 名	発表者氏名	所 属 部 門
J Gastroenterol	Epigenetics modulates the effect of chemotherapy on gastric cancer.	渡辺嘉行	内科学(消化器・肝臓内科)
Clin Nephrol	Successful treatment of hepatitis B virus-associated membranous nephropathy with lamivudine.	奥瀬千晃	内科学(消化器・肝臓内科)
Blood	Developmental regulation of yolk sac hematopoiesis by Kruppel-like factors 6.	松本伸行	内科学(消化器・肝臓内科)
World J Gastroenterol	Risk factors for retinopathy associated with interferon α -2b and ribavirin combination therapy in patients with chronic hepatitis C.	奥瀬千晃	内科学(消化器・肝臓内科)
Pathol Int	Hepatocellular carcinoma with silent and cirrhotic non-alcoholic steatohepatitis, accompanying ectopic liver tissue attached to gallbladder.	池田裕喜	内科学(消化器・肝臓内科)
World J Gastroenterol	Obstructive jaundice caused by secondary pancreatic tumor from malignant solitary fibrous tumor of pleuse : A case report.	山田典栄	内科学(消化器・肝臓内科)
J Gastroenterol	Molecular epidemiology of hepatitis A virus in metropolitan area in Japan.	高橋秀明	内科学(消化器・肝臓内科)
J Gastroenterol Hepatol	Safer endoscopic gastric mucosal resection: Preoperative proton pump inhibitor administration.	渡辺嘉行	内科学(消化器・肝臓内科)
J Gastroenterol	A case of deep venous thrombosis associated with pegylated interferon α 2b plus ribavirin treatment of chronic hepatitis C.	奥瀬千晃	内科学(消化器・肝臓内科)
生物物理化学	自然発症慢性膵炎モデルラット(雄性WBN/Kob)の網羅的遺伝子解析	伊東文生	内科学(消化器・肝臓内科)
日本消化器内視鏡学会雑誌	リンパ節転移陽性であった7mmの大腸sm癌の1例	野元雅仁	内科学(消化器・肝臓内科)
日本消化器内視鏡学会雑誌	拡大内視鏡診断が困難であった大腸隆起性病変の1例	大日方信幸	内科学(消化器・肝臓内科)
アルコールと医学生物学	Xenon CTを用いたアルコール性肝硬変の組織血流量の評価 非アルコール性脂肪肝炎性肝硬変とC型肝硬変との比較	高橋秀明	内科学(消化器・肝臓内科)
Mol Cell Biochem	Urinary liver-type fatty acid binding protein as a useful biomarker in chronic kidney disease.	Kamijo A, et al	内科学(腎臓・高血圧内科)
Am J Pathol	Liver-Type Fatty Acid-Binding Protein Attenuates Renal Injury Induced by Unilateral Ureteral Obstruction.	Kamijo-Ikemori A, et al	内科学(腎臓・高血圧内科)

(注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る)。

2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。

2. 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
ホルモンと臨床 内分泌病理学 最近の進歩 2005/2006	特異な病理所見を呈したACTH非依存性大結節性副腎形成(AIMAH)の一例	方波見卓行	内科学(代謝・内分泌内科)
PROGRESS IN MEDICINE	2型糖尿病における二相性プロタミン結晶性インスリンアナログ(ノボラピッド30ミックス注)を用いた従来療法の有用性に関する検討	川田剛裕	内科学(代謝・内分泌内科)
Journal of the Eastern Japan Association of Orthopaedics and Traumatology	Successful treatment with lipo-PGE1 in complex regional pain syndrome(CRPS) type 1 with type 2 diabetes	太田明雄	内科学(代謝・内分泌内科)
ACTH Related Peptides	成人期に副腎不全による低血糖を発症した下垂体茎断裂症候群の1例	佐藤智子	内科学(代謝・内分泌内科)
Internal Medicine	Penile Necrosis by Calciphylaxis in a Diabetic Patient with Chronic Renal Failure	Akio Ohta	内科学(代謝・内分泌内科)
ホルモンと臨床 内分泌病理学 最近の進歩 2005/2006	肺MALTリンパ腫を併発したリンパ球性汎下垂体炎の1例	小林鈴子	内科学(代謝・内分泌内科)
臨床泌尿器科	Aging maleの内分泌学	方波見卓行	内科学(代謝・内分泌内科)
Endocrine Journal	Asymmetric Dimethylarginine(ADMA) in the Aqueous Humor of Diabetic Patients	Motohiko Sugai	内科学(代謝・内分泌内科)
St. Mariana Med J.	Ataxic Form of Guillain-Barré Syndrome: Differential Diagnosis of Acute Cerebellar Ataxia	大島 淳	内科学(神経内科)
St. Mariana Med J.	Experimental Hypoglycaemic Neuropathy in Rat: Nerve Blood Flow and Nerve Conduction Study	大島 淳	内科学(神経内科)
臨床神経生理学	ヒラメ筋の持続的安静に伴う前角細胞興奮性の変動:H反射による検討	柳澤 俊之	内科学(神経内科)
成人病と生活習慣病	t-PA静注療法におけるSCU・SUの重要性	長谷川 泰弘	内科学(神経内科)
成人病と生活習慣病	t-PA時代の脳梗塞治療 適応症例判定における問題点	高田 達郎	内科学(神経内科)
成人病と生活習慣病	t-PA時代の脳梗塞治療 t-PA静注療法の拡大の可能性	高田 達郎	内科学(神経内科)
脳と循環	PET検査で何がわかるか?どこまで進歩したか?	渡邊 裕文	内科学(神経内科)

(注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る)。

2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。

2. 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
神経超音波医学	アテローム血栓性脳梗塞における頭蓋内主幹動脈病変と頸動脈病変—重症度の差を認めた例の検討—	清水 隆弘	内科学(神経内科)
聖マリアナ医科大学雑誌	ジストニアに対する低頻度連続経頭蓋磁気刺激の効果	塩原紀久子	内科学(神経内科)
聖マリアナ医科大学雑誌	脳梗塞慢性期における血小板自然凝集能の臨床的検討	矢崎直子	内科学(神経内科)
脳卒中	中大脳動脈塞栓症に対する局所線溶療法における経時適NIHSSおよびJESS評価の意義	高田 達郎	内科学(神経内科)
神経内科	筋萎縮性側索硬化症に対する連続経頭蓋磁気刺激の治療効果	堀内 正浩	内科学(神経内科)
脳卒中	Stroke Unit の現状と課題:急性期脳卒中診療体制に関する全国アンケート調査から	長谷川 泰弘	内科学(神経内科)
日本摂食・嚥下リハビリテーション学会雑誌	脊髄小脳変性症における嚥下障害の検討(1)	眞木二葉	内科学(神経内科)
日本摂食・嚥下リハビリテーション学会雑誌	脊髄小脳変性症における嚥下障害の検討(2)	塩原 紀久子	内科学(神経内科)
脳と循環	欧州型stroke unitと米国型stroke center	長谷川 泰弘	内科学(神経内科)
脳と循環	脳卒中の治療技術 アルテプラゼ静注療法	高田 達郎	内科学(神経内科)
神経治療学	t-PA静注療法のための救急体制構築 PDAIによる高速CT画像転送システムの活用を含めて	佐々木 直	内科学(神経内科)
臨床脳波	脳波・筋電図の臨床 瞬目反射およびビデオ内視鏡検査、嚥下造影検査による嚥下障害の評価	眞木 二葉	内科学(神経内科)
Medical Practice	血管炎症候群—ANCA関連血管炎を中心に—	尾崎承一	内科学(リウマチ・膠原病・アレルギー内科)
NHKきょうの健康	なんでも健康相談。Q&A「抗リン脂質抗体症候群」による血栓症で入院中です。	尾崎承一	内科学(リウマチ・膠原病・アレルギー内科)
最新医学	ダクリズマブ。自己免疫疾患の新しい治療法—生物学的製剤を中心に—	永淵裕子	内科学(リウマチ・膠原病・アレルギー内科)

(注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る)。

2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。

2. 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
分子リウマチ	Journal Club "Randomized trial of cyclophosphamide versus methotrexate for induction of remission in early systemic antineutrophil cytoplasmic antibody-associated vasculitis." "Etanercept plus standard therapy for Wegener's granulomatosis."	尾崎承一	内科学(リウマチ・膠原病・アレルギー内科)
Genes and Immunity	Association of HLA-DRB1*0901-DQB1*0303 haplotype with microscopic polyangiitis in Japanese. ,2006	Tsuchiya N	内科学(リウマチ・膠原病・アレルギー内科)
内科	ANCA関連血管炎に対する免疫抑制療法。慎重な立場から	尾崎承一	内科学(リウマチ・膠原病・アレルギー内科)
アレルギー	血管炎症候群の診断と治療Update	尾崎承一	内科学(リウマチ・膠原病・アレルギー内科)
Allergol. Int	ANCA-associated vasculitis: diagnostic and therapeutic strategy.	Ozaki S	内科学(リウマチ・膠原病・アレルギー内科)
Rheumatology	Intravenous cyclophosphamide therapy for progressive interstitial pneumonia in patients with polymyositis/dermatomyositis.	Yamasaki Y	内科学(リウマチ・膠原病・アレルギー内科)
総合臨床	多発性動脈炎	山崎宜興	内科学(リウマチ・膠原病・アレルギー内科)
日本小児循環器学会雑誌	川崎市学校心臓検診におけるBrugada症候群抽出の試み	麻生健太郎	小児科学
聖マリアナ医科大学雑誌	周産期における胎児および新生児ラット肺中のシグナル伝達系の経時的変化	有馬正貴	小児科学
聖マリアナ医科大学雑誌	Diphtheria Tetanus Acellular pErtussis Vaccine(DtaP)接種により誘導されるTh/Th2反応の測定	勝田友博	小児科学
日本小児腎臓病学会雑誌	チアノーゼ型先天性心疾患に伴う腎疾患チアノーゼ性腎症(cyanotic glomerulopathy)	生駒雅昭	小児科学
日本小児循血液学会雑誌	ATG/CyA/G-CSF治療後に3q21q26症候群を発症した再生不良性貧血の1例	木下明俊	小児科学
Brain&Development	Spontaneous resolution of intractable epileptic seizures following HHV-7 infection	山本仁	小児科学
手術60巻(7)	磁石圧迫吻合法(山内法)による消化管バイパス術	小森山広幸	外科学(消化器・一般外科)
THE JOURNAL OF BIOLOGICAL CHEMISTRY Vol.281 No 27	Essential Role of the B23/NPM Core Domain in Regulating ARF Binding and B23 Stability	榎本武治	外科学(消化器・一般外科)

(注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る)。

2「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。

2. 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
日本腹部救急医学会雑誌26(6)	特集:腹部救急医療におけるリスクマネジメント 胃十二指腸潰瘍穿孔に対する診断と治療ーリスク マネージャーの観点からー	渡邊泰治	外科学(消化器・一 般外科)
消化器の臨床 Vol.9 No.4	特集:食道静脈瘤治療ー選択と手技 IVRによる 治療 バルーンタンポナーデ法	田中一郎	外科学(消化器・一 般外科)
手術60巻(10)	肝下部下大静脈遮断による左葉切除	大坪毅人	外科学(消化器・一 般外科)
消化器外科 第29巻 第12号	肝門部胆管癌に対する左葉尾状葉切除	大坪毅人	外科学(消化器・一 般外科)
臨床外科「外科」第68巻 第12号	特集:知っておくべき良性疾患に対する外科的処 置および手術 VⅡ.肝臓 1.肝縫合術	大坪毅人	外科学(消化器・一 般外科)
Surg Today. 2006;36(12)	Protein pattern difference in the colon cancer cell lines examined by two-dimensional differential in- gelelectrophoresis and mass spectrometry.	片山真史	外科学(消化器・一 般外科)
手術60巻(13)	腹腔鏡補助下直腸切除術の際有用な直腸鏡の開 発	花井 彰	外科学(消化器・一 般外科)
診断と治療 第95巻・第2 号	消化器外科(胃・大腸・胆嚢)手術後における真菌 のmicrobial translocationの検討	前田壽哉	外科学(消化器・一 般外科)
胸部外科	腹腔動脈と上腸間膜動脈の起始部閉塞に下腸間 膜動脈瘤を伴った胸腹部大動脈瘤	阿部裕之	外科学(心臓血管外 科)
胸部外科	右房球状血栓の1例	阿部裕之	外科学(心臓血管外 科)
日本臨床外科学会雑誌	Small aorta syndromeによる腹部大動脈閉塞の1 例	舟木成樹	外科学(心臓血管外 科)
Surgery Today	Reconstruction of the Hemidiaphragm and Hemipericardium Using Combined Reversed Latissimus Dorsi and Serratus Anterior Muscle Flaps	Hisashi Tsukada	外科学(呼吸器外 科)
Int. J. Cancer	p53 Mutation spectra for squamous cell carcinomas at different levels of human bronchial branches	Takuo Shimmyo	外科学(呼吸器外 科)
Rheumatology	intravenous cyclophosphamide therapy for progressive interstitial pneumonia in patients with polymyositis / dermatomyositis	H.osada	外科学(呼吸器外 科)
Journal of Pediatric Surgery Vol.41 p.2086-2089	Pressure-limited vesico-amniotic shunt tube for fetal obstructive uropathy	H Nagae	外科学(小児外科)

(注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る)。

2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。

2. 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
JOHNS Vol.22.No.9 p.1289-1295	咽頭・気管の先天異常	北川博昭	外科学(小児外科)
Pediatr Surg Int Vol.22 p.875-879	Early bladder wall changes after creation of obstructive uropathy in the fetal lamb	H Kitagawa	外科学(小児外科)
Radiat Med Vol.25.No.1 p.1-7.	Ductal carcinoma in situ: correlations between high-resolution magnetic resonance imaging and histopathology.	Y Kanemaki	外科学(乳腺・内分泌外科)
Cancer Res Vol.67.No.3 p.951-958	BRCA1 Ubiquitinates RPB8 in Response to DNA Damage	W Wu	外科学(乳腺・内分泌外科)
Cancer Sci Vol.98.No.2 P.174-181	Elevated expression of protein regulator of cytokinesis 1, involved in the growth of breast cancer vells	A Shimo	外科学(乳腺・内分泌外科)
Neuro-Oncology	高気圧酸素状態下における抗癌薬の薬物動態	田中克之	脳神経外科学
Neurosonology	くも膜下出血後血管攣縮における経頭蓋ドプラ測定-TCDとSVRIにおける評価; preliminary report-	小野 元	脳神経外科学
日本臨床スポーツ医学会雑誌	野球練習中の頭蓋骨陥没骨折の1例、特に練習中の防具装着の徹底について	千川芳弘	脳神経外科学
日本臨床救急医学会雑誌	外傷性頭蓋外内頸動脈瘤の一例	小野 元	脳神経外科学
CI研究	Air Artifact on 3D-CT in a Pediatric Head Injury Case Mistaken for Depressed Fracture	小野 元	脳神経外科学
日本救急医学会関東地方会雑誌	急性硬膜外血腫によるS状静脈洞圧迫が考えられた小児頭部外傷の1例	小野寺英孝	脳神経外科学
脳卒中の外科	くも膜下出血患者における Prophylactic Isovolemic Hemodilution Pharmacotherapy (PIHP)の効果	小野 元	脳神経外科学
J Neurosurg Spine.	Head-turned rear impact causing dynamic cervical intervertebral foramen narrowing: implications for ganglion and nerve root injury.	Tominaga Y	整形外科
日本足の外科学会雑誌	SF-36を用いた外反母趾手術症例の健康関連QOLの評価-日本足の外科学会母趾判定基準による医療側からの客観的評価との比較-	仁木久照	整形外科
日本マイクロ会誌	重度軟部組織損傷を伴った下腿・足部開放骨折後の再建について	清水弘之	整形外科

(注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る)。

2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。

2. 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
6th APFSSH	Clinical Application of the Two-Plating System for the Distal Radius Fracture	Moroe Beppu	整形外科
骨・関節・靭帯	骨・軟部腫瘍における proton-decoupling and nuclear Overhauser enhancementを併用したP-31 MR spectroscopyの臨床的有用性	中島久弥	整形外科
Journal of Dermatological Science	Oral antihistamine therapy influences plasma tryptase levels in adult atopic dermatitis	Tamihiro Kawakami	皮膚科学
皮膚病診療	ステロイド外用剤と色素異常	相馬良直	皮膚科学
新薬と臨床	掻痒を伴う皮膚疾患患者に対するエバステン(エバステル [®] 錠)の有効性の検討-DLQIによる患者QOLの評価薬と臨床	相馬良直	皮膚科学
British Journal of Dermatology	Elevated serum anticardiolipin antibody levels in adult Henoch-Schönlein purpura.	Tamihiro Kawakami	皮膚科学
Asian J Androl	Inter/intra investigator variation in orchidometric measurements of testicular volume by ten investigators from five institutions	Tatsunami S Iwamoto T	泌尿器科学
泌尿器外科	慢性腎不全の生涯治療 下部尿路障害を持つ症例に対する腎移植(特に膀胱を使用できなかった2例について)	力石辰也	泌尿器科学
日本医師会雑誌	生殖能力のある日本人男性の精子数-国際共同研究による精液検査の諸問題	岩本晃明、野澤資亜利	泌尿器科学
Endocr J	Hormone profiles after intramuscular injection of testosterone enanthate in patients with hypogonadism	Nakazawa R, Iwamoto T	泌尿器科学
Human Experimental Toxicology	Effect of prenatal exposure to bisphenol A on the serum testosterone concentration of rats at birth	Tanaka M, Iwamoto T	泌尿器科学
Fertil Steril	Altered expression pattern of heat shock transcription factor, Y chromosome(HSFY) may be related to altered differentiation of spermatogenic cells in testes with deteriorated spermatogenesis.	Sato Y, Iwamoto T	泌尿器科学
聖マリアンナ医科大学雑誌	精巣組織の異所移植と精巣機能の維持・保存・再生-ヒトの精子形成をマウスの背中で再現する-	岩本晃明	泌尿器科学
J Androl	Urinary prostate specific antigen is a noninvasive indicator of sexual development in male children	Sato I, Iwamoto T	泌尿器科学
聖マリアンナ医大誌	熱可逆性ハイドロゲル(Thermoreversible gelation polymer; TGP)を培養基材に用いた再発した婦人科癌に対する抗癌剤感受性試験	大原 樹	産婦人科学

(注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る)。

2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。

2. 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Investigative Ophthalmology & Visual Science	TNF- α -Induced Optic Nerve Degeneration and Nuclear Factor- κ B p65	Yasushi Kitaoka	眼科学
BRAIN RESEARCH	Involvement of TNF- α -in glutamate-induced apoptosis in a differentiated neuronal cell line	Jiro Kogo	眼科学
Journal of Neuroscience Research	Neuroprotective Effect of 17 β -Estradiol Against N-Methyl-D-Aspartate-Induced Retinal Neurotoxicity Via p-ERK Induction	Yasuhiro Hayashi	眼科学
BRAIN RESEARCH	NMDA-induced interleukin-1 β expression is mediated by nuclear factor- κ B p65 in the retina	Yasushi Kitaoka	眼科学
Auris Nasus Larynx	Comparison between stabilometry with and without head tilts in a roll plane.	Kenya Inukai	耳鼻咽喉科学
聖マリアンナ医科大学雑誌	副鼻腔術後および慢性副鼻腔炎患者における涙嚢窩・骨性部鼻腔涙管の形態変化—正常群との比較検討—	栗原宜子	放射線医学
Radiat Med	Unilateral Transpedicular Percutaneous Vertebroplasty Using Puncture Simulation.	小林 憲	放射線医学
医学物理	診断用モニタ不変性試験の環境構築と運用	江原範重	放射線医学
Interventional Raiology	GDA-コイル法用に改良した0.035inch-GW対応W-Spiral(呼称:G-Spiral)の使用経験	岡本恭子	放射線医学
日獨医報	特集:Emergency Radiology 救急画像診断(IVRを含む)において放射線科医の知っておくべきポイント 心・大血管における救急疾患	黒木一典	放射線医学
日獨医報	特集:治療方針決定にMSCTが及ぼすインパクト—CT Angiographyを中心に— 大血管疾患の診断・治療におけるMSCTのインパクト	小林泰之	放射線医学
臨床画像	肺血栓塞栓症に必要な画像診断およびIVR 肺血栓塞栓症におけるMSCT診断	松岡 伸	放射線医学
INNERVISION	乳がん診療のTOPIC 乳腺疾患における高分解能MRIの現状と今後の展望 局所高分解能撮像から両側乳房高分解能撮像へ	印牧義英	放射線医学
日本胸部臨床	呼吸器疾患のIVR 胸部大静脈に対するIVR	松岡 伸	放射線医学
J Comput Assist Tomogr	Morphological Progression of Emphysema on Thin-section CT:Analysis of Logituditudinal Change in the Number and Size of Low-Attenuation Clusters	松岡 伸	放射線医学

(注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る)。

2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。

2. 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
臨床画像	当直画像診断医のためのCT・MRIのための注意点 外傷・胸部	松本純一	放射線医学
Radiat Med	Ductal Carcinoma in Situ:Correlations between high-resolution Magnetic Resonance Imaging and Histopathology	印牧義英	放射線医学
映像情報Medical	特集:デジタルマンモグラフィ時代を迎えて 高分解能MRIによる乳がん診断ー現況と今後の展望	岡本恭子	放射線医学
医学物理	画像診断分野の医療経済ならびに関連する状況について	今村恵子	放射線医学
Respiration	Quantitative Thin-Section CT Analysis of the Enlargement and Coalescence in Patients with Emphysema	松岡 伸	放射線医学
Vascular Lab	Diagnosis特集: 循環器:MR～最近の非造影撮影を中心に	小川普久	放射線医学
			計 126件

(注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る)。

2「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。

(様式第12)

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法

管理責任者氏名	病院長 小坂橋 靖
管理担当者氏名	総務部長 伊藤喜男、事務部長 薄井隆文、薬剤部長 増原慶壮 臨床検査部長 辻本文雄、画像診断センター 栗原泰之、医療情報部 中島康雄 看護部長 陣田泰子、栄養部長 川島由起子

		保管場所	分類方法
診療に関する諸記録 病院日誌、各科診療日誌、処方せん、手術記録、看護記録、検査所見記録、エックス線写真、紹介状、退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約		薬剤部、医療情報部、看護部、臨床検査部、画像診断センター 事務部管理課、事務部医事課、事務部医療課、 メディカルサポートセンター	診療記録は平成17年8月から電子化を開始した。診療記録は1患者1カルテ方式とし、入院は10年、外来は5年の保存期間を規定としている。
病院の管理及び運営に関する諸記録	従業者数を明らかにする帳簿	総務部	
	高度の医療の提供の実績	事務部	
	高度の医療技術の開発及び評価の実績	事務部	
	高度の医療の研修の実績	事務部	
	閲覧実績	事務部	
	紹介患者に対する医療提供の実績	メディカルサポートセンター	
	入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	薬剤部	
確規保則第9条の23及び第11条各号に掲げる体制	専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況	医療安全管理対策室	
	専任の院内感染対策を行う者の配置状況	感染制御部	
	医療に係る安全管理を行う部門の設置状況	医療安全管理対策室	
	当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	医療課	
	医療に係る安全管理のための指針の整備状況	医療安全管理対策室	
	医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	医療安全管理対策室	
	医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	医療安全管理対策室	
	医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	医療安全管理対策室	

(注) 「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。

(様式第13)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法及び紹介患者に対する医療提供の実績

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

閲覧責任者氏名	病院長 小坂橋 靖
閲覧担当者氏名	事務部長 薄井 隆文
閲覧の求めに応じる場所	事務部 管理課

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数	延	一件
閲覧者別	医師	延 一件
	歯科医師	延 一件
	国	延 一件
	地方公共団体	延 一件

○紹介患者に対する医療提供の実績

紹介率	56.4 %	算定期間	平成18年4月1日～平成19年3月31日
算出根拠	A：紹介患者の数		19,019 人
	B：他の病院又は診療所に紹介した患者の数		14,622 人
	C：救急用自動車によって搬入された患者数		3,744 人
	D：初診の患者の数		51,580 人

- (注) 1 「紹介率」欄は、A、B、Cの和をBとDの和で除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
- 2 ABCDは、それぞれの延数を記入すること。

(様式第13-2)

規則第9条の23及び第11条各号に掲げる体制の確保状況

① 専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況	有(1名)・無
医療安全管理者(看護師) 1名	
② 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	有(1名)・無
感染管理者(医師) 1名	
③ 医療に係る安全管理を行う部門の設置状況	有・無
医療安全管理対策室 ・所属職員： 専任4名(看護師2名、事務員2名) 兼任(医師4名、看護師1名、薬剤師1名、診療放射線技師1名) ・活動の主な内容： (1) 事故防止に関する活動 *インシデント・アクシデントレポートの集計、分析、改善策の検討・策定・評価、管理 *各部門のリスクマネージャーとの連絡調整 *医療安全に関するマニュアルの作成と更新 *各部門の安全活動状況の把握(巡視)と指導 (2) 事故調査に関する活動 *事故発生時の調査、分析と改善策の検討・策定・評価 (3) 安全教育・啓蒙活動 *安全管理に関する教育・研修の企画、運営 *至急回報、ニュースの発行 *安全管理に関する会議の運営	
④ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	有・無
患者相談窓口 次のとおりの内容を外来周りと病棟に掲示し、入院時に配布する「入院のしおり」にも記入している。また、病院のホームページに掲載している。 (1)趣旨 (2)設置場所 (3)電話/FAX/Eメールアドレス (4)担当者の所属、氏名及びその責任者 (5)対応時間 相談事案の受理、取り扱い、集計、管理者への報告等は「大学病院患者相談窓口運営規程」に基づいて行なっている。	

⑤ 医療に係る安全管理のための指針の整備状況		有・無
<p>医療安全管理指針 平成12年4月1日作成 平成15年4月1日改定 平成16年3月1日改定一（別紙）</p> <p>・指針の主な内容： *基本理念 *用語の定義 *委員会・組織 *マニュアルの整備 *職員研修 *報告制度 *医療事故発生時の対応 *指針の閲覧 *指針の改定 について明記。</p>		
⑥ 医療に係る安全管理のための委員会の開催状況		
医療安全対策委員会		年13回
<p>・人員構成： 事故防止担当副院長、医療安全管理対策室長、医療安全管理者を含む医師9名、看護師2名、薬剤師1名、管理栄養士1名、臨床検査技師1名、診療放射線技師1名、事務員1名で構成。</p> <p>・活動の主な内容： (1) 医療安全に係る事項の審議 *医療安全管理に係る基本方針 *リスクマネージャー会議・対策室からの提言内容に関すること *医療安全対策の立案・実施に関すること *医療安全推進に関すること (2) 事故発生時の対応 *事故報告書（アクシデント・合併症）の確認 *患者・家族に対する、マスコミ等に対する、病院としての対応策の検討 (3) 医療安全管理対策室への改善策等の提言</p>		
リスクマネージャー会議		年13回
<p>・人員構成： 事故防止担当副院長、医療安全管理対策室長、医療安全管理者を含むリスクマネージャー（医師41名、看護師39名、技師等17名、事務員10名）</p> <p>・活動の主な内容： *当院のインシデント・アクシデント事例の共有 *事故防止の発生要因分析と対策の検討とその評価 *マニュアル、事故防止対策の実施状況及び評価</p>		

⑦ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況			年26回
18年度	開催日	テーマ名	参加者数
(1)第1回職員研修会 (講演会1回目)	5月17日	自動体外除細動器(AED)について(当院救命救急センター副センター長)	132名
(2)第1回職員研修会 (講演会2回目)	5月23日	〃 (当院救命救急センター医長)	106名
(3)第1回職員研修会 (ビデオ研修会1回目)	5月24日	〃	46名
(4)第2回職員研修会 (講演会1回目)	5月26日	クレームを医事紛争に発展させない為に(当院医療課課長)	315名
(5)第2回職員研修会 (講演会2回目)	6月22日	〃	295名
(6)第2回職員研修会 (ビデオ研修会1回目)	6月27日	〃	136名
(7)第2回職員研修会 (ビデオ研修会2回目)	6月28日	〃	97名
(8)第2回職員研修会 (各部署リスクマネージャーからの伝達講習)	6月29日～ 8月31日	〃	867名
(9)第3回職員研修会 (講演会1回目, 医師・看護師対象)	5月31日	輸液施行中の管理(宮脇竜一協和発酵工業株式会社)	126名
(10)第3回職員研修会 (講演会2回目, 医師・看護師対象)	6月5日	〃	169名
(11)第4回職員研修会	12月18日	医事紛争の現状と課題(福嶋弘榮-当院顧問弁護士、弘中総合法律事務所)	425名
(12)第5回職員研修会 (講演会1回目)	1月22日	重大医療事故発生時の対応について(当院小児外科部長、医療安全管理対策室長)	306名
(13)第5回職員研修会 (講演会2回目)	1月29日	〃	222名
(14)第5回職員研修会 (ビデオ研修会1回目)	1月26日	〃	104名
(15)第5回職員研修会 (ビデオ研修会2回目)	1月30日	〃	130名

(16)第5回職員研修会 (ビデオ研修会3回目)	1月31日	〃	115名
(17)第5回職員研修会 (各部署リスクマネージャーからの伝達講習)	2月1日～3月14日	〃	671名
(18)研修会 (1回目, リスクマネージャー対象)	8月28日	背景要因分析手法に関する研修会	12名
(19)研修会 (2回目, リスクマネージャー対象)	9月6日	〃	10名
(20)研修会 (1回目, 医師・看護師対象)	12月19日	プレフィルドシリンジ薬剤の使用時注意点とシリンジポンプ操作方法について	64名
(21)研修会 (2回目, 医師・看護師対象)	12月20日	〃	63名
(22)研修会 (3回目, 医師・看護師対象)	12月21日	〃	56名
(23)研修会 (1回目, リスクマネージャー・各部署2名以上対象)	2月16日	医療事故電子報告システム説明会～インシデント・アクシデント・合併症報告について～	72名
(24)研修会 (2回目, リスクマネージャー・各部署2名以上対象)	2月19日	〃	104名
(25)研修会 (3回目, リスクマネージャー・各部署2名以上対象)	2月21日	〃	77名
(26)eラーニング (医師・看護師対象)	6月12日～7月31日	輸液施行中の管理～血管外漏出時影響度の高い薬剤と対処法について～	931名
		計	5651名

⑧ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況

・医療機関内における事故報告等の整備 (有・無)

*レポートの集計、分析、改善策の検討・策定・評価、管理

医療安全管理対策室がインシデント・アクシデントレポート、合併症発生報告書の集計、分析、改善策の検討・策定・評価、管理を行なう。当該部署で検討が必要と判断した事例は検討指示を出す。指示を受けた当該部署は、検討会終了後、結果報告書を提出する。検討結果報告書のうち病院全体での協議・周知が必要なものについてはリスクマネージャー会議で取り扱う。医療安全管理対策室で審議後、医療安全対策委員会に報告する。

(1) 「インシデント・アクシデントレポート」による報告

- ①患者に傷害が発生した事例、
- ②患者に傷害が発生する可能性があった事例、
- ③医療行為に関する、患者・家族からの苦情などを、
当事者・非当事者がリスクマネージャー経由で医療安全管理対策室に報告する。

(2) 「合併症発生報告書」による報告

合併症の発生時は、リスクマネージャー・所属部長経由で医療安全管理対策室に報告する。

・その他の改善のための方策の主な内容：

*回報を用いた職員周知と周知状況および理解状況の確認

至急回報の配布により、院内外のインシデント・アクシデント事例に関する防止情報等の職員周知を行なう。

理解状況の確認方法については、PCでeラーニング配信し、確認テスト合格で理解状況の確認を行なう。

医療安全管理指針

1. 基本理念

医療機関は、医療事故の発生・再発を防止することで患者の安全と医療の質の確保を図らなければならない。

本指針は、次のとおりの基本的な考え方に基づいて医療従事者の個人レベルの対策と、病院全体の組織的な対策を推進することによって事故を防止し、患者が安心して安全な医療を受けられる環境を整備することを目標とする。

- (1) 特定機能病院である本院は、安全管理上の問題点を有していることを認識する。①講座制による縦組織であり、横の関係が希薄②高度医療が求められ、患者も大きな期待を抱いて受診する③研修医、医学生の教育研修機関である。
- (2) 個人及び組織として、絶対に事故は起こさないという自覚・意識を持つ。
- (3) 「それでも人間はエラーをおかす」という前提に基づいて、個人及び組織的なチェック体制を整備する。
- (4) 医療を受ける側、患者・関係者に対するインフォームドコンセントの重要性を認識する。患者側との良好なコミュニケーションと信頼関係の保持に努めなければならない。
- (5) 事故等が発生した場合は、当事者や当該部署が個々の判断のみで行動するのではなく、病院として組織的に対応する。

2. 用語の定義

本指針で使用する主な用語の定義は、以下のとおりとする。

(1) インシデント

患者に被害を及ぼすことはなかったが、日常の医療現場で「ヒヤリ・ハット」した事例。事前に誤りが訂正された場合や、誤った行為を実施してしまったが結果的に被害が生じなかった場合などを言う。教職員に被害が生じた場合も含む。

(2) 医療事故・アクシデント

医療の過程において患者に発生した望ましくない事象。医療提供側の過失の有無は問わず、不可抗力と思われる事象も含む。また、教職員に発生した

場合も含む。

(3) 合併症

ある医療行為を行うことによって発生すると予測される、あるいは発生した好ましくない副次的結果。ある疾患に伴って起こった他の疾患、余病。予測された結果であった場合や、事前に説明がなされていた場合も含む。

(4) 教職員

本院の業務に従事する医師、看護師、薬剤師、検査技師、事務職員等あらゆる職種を含む。医療安全管理に関しては、業務委託先会社等に所属して本院の業務に従事している者も含む。

(5) 担当副院長

医療安全管理を担当する副院長。医療安全対策委員会委員長となる。

(6) 医療安全管理者

本院全体の医療安全管理を中心的に担当する。医師、薬剤師または看護師のうちのいずれかの有資格者。専任として医療安全管理対策室に所属し、医療安全対策委員会及びリスクマネージャー会議の構成員となる。

(7) リスクマネージャー

医療安全管理に係る所属部署の責任者として実務を担い、医療安全文化を醸成する。

3. 委員会、組織（「医療安全管理に係る組織図」参照）

(1) 医療安全対策委員会

安全管理の体制の確保及び推進のため、各部門の責任者等と医療安全管理者により構成し、主に安全管理に係る基本方針について審議し決定する。月1回の定例開催の他、必要に応じて臨時に開催する。この審議の経過及び結果等委員会の全容を病院長に報告する。

(2) リスクマネージャー会議

リスクマネージャーと医療安全対策委員会委員長、医療安全管理対策室長、医療安全管理者により構成し、安全管理に係る実務的活動を行う。月1回の定例開催の他、必要に応じて臨時に開催し、会議の全容を医療安全対策委員会委員長に報告する。

(3) 事故調査委員会

重大医療事故発生時等に、病院長が必要と認めたときに設置するもので、委員長及び委員は、その都度病院長が委嘱する。事実経過を調査し、これに基づいて原因究明を行うとともに改善策を検討し、これらの経過及び結果を病院長に報告する。

(4) 医療安全管理対策室

医療安全対策委員会で決定された方針に基づいて、組織横断的に安全管理の中核を担う病院長直属の組織。医療安全管理者が所属する。

4. マニュアルの整備

- (1) 各部署に冊子として配備し、併せて院内LAN、学内LANに掲載する。
- (2) 本指針及びマニュアルを要約し、携帯版にまとめて教職員個々に配布する。
- (3) 改訂は、定期的点検時と必要が生じた時点で、医療安全管理対策室の管理のもとに行う。

5. 職員研修

- (1) 安全管理のための基本的考え方及び具体的方策を教職員に周知徹底する。これにより、個々の教職員の医療安全に対する意識、安全に業務を遂行するための知識・技能やチームの一員としての意識の向上等を図るために実施する。
- (2) 全体研修は、年2回以上開催する他、必要に応じて開催する。
- (3) この他、参加対象を関係部署に限定して不定期に開催する。

6. 報告制度

(1) インシデント・アクシデントレポート

当該部署のリスクマネージャーを経て医療安全管理対策室に提出する。

報告者は、その報告を理由とした不利益を受けないことを確認する。また、報告書の取り扱いに際しては、患者側と医療提供側双方の当事者の守秘に配慮する。

(2) 合併症等報告書

合併症であると判断した場合は、当該部署の判断に留めることなく、病院と

しての見解を定めるために、当該部署のリスクマネージャーと所属長を経て医療安全管理対策室に提出する。

(3) 医薬品安全性情報報告書、医療機器安全性情報報告書

医薬品・医療用具等安全性情報報告制度に基づいて、厚生労働省医薬食品局安全対策課に報告する。

7. 医療事故等発生時の対応（「重大医療事故発生時の対応」参照）

- (1) 緊急処置を最優先し、患者の救命、症状回復・維持に全力を尽す。
- (2) 必要に応じて関係医療従事者を招集して対処する、発生部署のみでは対処が不可能な場合は病院組織のすべてを挙げて支援する。
- (3) その後、速やかに所定の緊急速報を行う。
- (4) 同時に、患者・関係者に説明する。説明は、可能な限りの当該部署の上位者やリスクマネージャーを含む複数であたるものとし、その内容を診療記録に記録する。
- (5) 病院長は、必要に応じて事故調査委員会を設置する。
- (6) 公表は、医療事故等公表基準に基づいて行う。

8. 指針の閲覧

患者等から本指針の閲覧の求めがあった場合には、これに応ずる。

9. 指針の改訂

本指針の改訂は、医療安全対策委員会において行う。

策定 平成12年4月 1日

改正 平成15年9月29日

改正 平成16年3月 1日